



## キーワードはメモする力



「ノート検定」の評価基準（採点基準）を見ていると、今年のポイントは「目標」「振り返り」と「メモ」だろうか。「もれなく写せている」は当然であり、さらに**授業の理解を深めるための「目標」「振り返り」と「メモ」**。去年からのレベルアップ。次にあげるのは3年生の評価基準（採点基準）の一部（英語だけは形式が違うので、「メモ」という言葉は見受けませんが、他の項目に含まれているのかもしれない）

「板書＋ポイントをしばった**先生の言葉**が書かれている（国語）」「授業の中で**大事だと思った話のメモ**を取ったり、アンダーラインを引いている（社会）」「板書以外に**わかったことや大事な話のメモ**をとっている（数学）」「板書以外に**わかったことや大事な話のメモ**を書いている（理科）」「POINTとその解説が書かれてある（英語）」

私は今「朝読書」で「**メモの魔力**」（前田裕二・著）という本を読んでいる。書店で平積みされていた売れ筋の本。帯には「2019年一番売れたビジネス書 オリコン・トーハン・日販・TSUTAYA 第1位」とある。下はその冒頭部分の目次。

### 序章 「メモの魔力」を持てば世界に敵はない

- メモがあなたの「人生のコンパス」を作る
- メモによって夢は現実になる

### 第一章 メモで日常をアイデアに変える

- メモは「第2の脳」を活用する
- 「記録」ではなく「知的生産」のためにメモをとる
- 僕にとってメモは「生きること」である
- メモによって鍛えられる5つのスキル
  - ①アイデアを生み出せるようになる（知的生産性の向上）
  - ②情報を「素通り」しなくなる（情報獲得の伝導率向上）
  - ③相手の「より深い話を聞き出せる（傾聴能力の向上）」
  - ④話の骨組みがわかるようになる（構造化能力の向上）
  - ⑤曖昧な感覚や概念を言葉にできるようになる（言語能力の向上）

#### ■アイデアを生み出すメモの書き方

- ノートは見開きで使う
- 「ファクト→抽象化→転用」という最強のフレームワーク
- 日常をすべてアイデアに変える
- 「抽象化」と「転用」でさらに思考を深める
- 「SHOWROOM」がメモから生まれた
- 「日付」「サマリー」「標語」を書く
- 4色ボールペンによる「色分け」で判断力をあげる
- 「記号」の使い分けによって情報にフラグをたてる
- 「標語」が伝える力の源泉になる
- 「朝5時半の女」は秀逸な標語事例

第1章「メモで日常をアイデアに変える」の目次を見ているだけでも面白い。

■「記録」ではなく「知的生産」のためにメモをとる

■メモによって鍛えられる5つのスキル  
①（知的生産性の向上）②（情報獲得の伝導率向上）③（傾聴能力の向上）④（構造化能力の向上）⑤（言語能力の向上）

■アイデアを生み出すメモの書き方

■4色ボールペンによる「色分け」で判断力をあげる

■「記号」の使い分けによって情報にフラグをたてる

■「標語」が伝える力の源泉になる 等々。

脳の働きには限度がある。コンピュータに「記憶」と「稼働」の二つの機能があるように、私たちの「脳」の機能を「記憶」ばかりに割くわけにはいかない。脳の多くを「考える」という「稼働」に割り、「記憶」は出来るだけ外付けハードディスクの別の脳に預けたい。それが「ノート」や「メモ」。

彼は言う「**メモのポイントは「気になればメモをとること」**」と。メモをとる基準は

「気になる」だという。「気になる」の基準は様々だろう。「忘れてはいけないな」「これは大事なだ」「これはどんな意味だろう」など様々。自分の『主観』で言いから、「まず気になればメモ

をとれ」と。メモをとった「**気になれば**」の事象・現象・事実から、「What」「Why」「How」の疑問詞の「**問い**」で考え、「**どこでも、どの場合でも通用する「一般化」・「抽象化」**」の発見につながる。

★彼はなぜ速く走れるのだろうか？★どのようにすれば、彼のように速い球が投げられるか？★相手のバランスを崩すのにはどうすればよいのか？★どうすれば、ポイントをつかむ読み方が出来るのか？★わかりやすく話すとはどうすることか？★宇宙とは何か？命とは何か？等々

書いたあと、「メモを分析し、色分けする」と言う。慣れてくると瞬時に色分けも出来るようになる。その際活躍するのが、ノートをとるときの「あれば便利グッズ」の「**三色ペン**（ボールペン・蛍光ペン、著者は四色ボールペンを使用）」と「**付箋・ポストイット**」。これらは、ここでも活躍する。

「赤」「青」「黒」「緑」…。重要度で色分けするのも1つ。「主観」や「客観」、「頻度」で色分けするのも1つ。様々でいいだろう。著者は「主観」「抽象化（一般化）」「転用」で色分けしているという。「付箋・ポストイット」の効用は、整理のために貼り直しが効くという点。きれいに整理すると「やる気が増す」をあげていたのは「手帳甲子園」に出場した先輩の言。一工夫のしどころだろう。

国語の聞き取りテストでのメモの取り方を見ていると3種類ある。一つはICレコーダーのように「すべてを書こうとする」タイプ。2つ目は「大事だと思うこと」をバラバラに書きとるタイプ（ゴタゴタ聞き）。そして、最後がバラバラに書きとった内容を「関連する項目」同士でつなぎ合わせるタイプ（団子の串刺しタイプ）。話すスピードの方が書くスピードよりも速い。だから、ICレコーダータイプは、「速記」という特殊な文字を使わない限り難しい。君たちに求められるのは最後の「**団子の串刺しタイプ**」。「気になれば」「大事だと思えば」単語でいいからメモをとり、関連づけて整理すること。 **ノートも一工夫してみてください。**

メモをとろう



## 学校説明会の申込は個々で行ってください

学校再開に合わせるかのように、「**学校説明会**」のチラシの全員配布（**閉じるためのファイルも配布しました**）や**教室掲示**が続いています。申込は「**大江高校**」「**海洋高校**」以外は全て個人での申込です。中学校からの進路が「**みんなと一緒に**」ではないように、その前段階の「**学校説明会への参加申込**」も**個人**ごとです。

今年度は特にこの申込に注意が必要。コロナウイルス感染防止対策として「**3密を避ける**」視点で変更が生じているからです。その主なものをあげます。

- ①開催を「分散開催」する。そのための日程増加。同じ内容は1回限りの参加
- ②「参加人数制限」をする
- ③人数制限のための事前申込制度
- ④「密接」の可能性のある部活動体験・授業体験の中止や変更
- ④動画配信での代替やオンラインでの個別相談 等々

そのためにはまず

- (1)「**スケジュール手帳**」か日程を書きこむ「**カレンダー**」を用意する
- (2) 志望を考えている学校の日程を書きこむ
- (3) **WEBやQRコードから申込を完了する**。
- (4) 申込完了の学校については「**時間**」「**申込内容**」等を記入する
- (5) 日程が重なっていた他の学校については、「**別の機会**」の申込を行う

実は、既に配布や教室掲示をしている高校説明会の案内で既に**数校が重なり合っている日がある**。**7月18日（土）**の芸術・洛陽総合・平安女学院、**19日（日）**には山城・乙訓、**8月1日（土）**には洛東・翔英・銅駝・芸術・平安女学院・大谷、**11月7日（土）**文教・両洋・大谷・つくば開成・東稜、**12月5（土）**文教・廣学館・平安女学院・つくば開成・東稜 等々である。これでもすべての集約ではない。各自が自分の日程を把握するために、スケジュール手帳で自己管理してください。更に、模擬試験の日程なども記入すべきです。